

かながわ 助産師職能だより

第47号
2025年1月17日発行

公益社団法人神奈川県看護協会 助産師職能委員会 発行責任者 布施 明美
〒231-0037 横浜市中区富士見町3-1 TEL: 045 (263) 2901 FAX: 045 (263) 2905
E-mail kanakan1@basil.ocn.ne.jp URL <https://www.kana-kango.or.jp>



ごあいさつ



新年あけましておめでとうございます。
日頃より神奈川県看護協会助産師職能委員会
へのご支援を賜り心より感謝申し上げます。

さて社会の動きは大きく変動し、合計特
殊出生率は、1974年以降低下し、2023年
の調査では過去最低の1.20（概数）となり、
東京都は0.99と1を下回りました。2022
年出生数が70万台となりハイリスク妊婦や
社会的ハイリスク妊産婦が増加し、産科合
併症が全妊婦の54.8%です。不妊不育に悩
むカップルは3組に1組です。また出産後
のメンタル不調の問題や児童虐待の増加な
ど周産期に関する課題は多岐にわたります。

助産師職能委員会では、今年度は女性活
躍・男女共同参画の重点方針を念頭に活動
いたします。

働く女性の月経、妊娠、出産、更年期等、
女性のライフステージごとの健康課題に起
因する望まない離職等を防ぎ、女性の活躍
を推進する。また生涯にわたる健康への支
援では医療従事者に対する女性の健康課題

に関する研修・啓発
の実施、プレコンセ
プションケアなど、
性差に応じた健康を
支援するための取り
組みを推進するとう
たわれていることか

ら、プレコンセプションケアを実践できる
人材育成を目指し研修を展開しています。
人生100年時代に向けて皆が輝き続けられ
る体づくりを支援していきましょう。

今年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



助産師職能委員長
布施 明美



済生会横浜市東部病院

横浜市鶴見区下末吉 3-6-1

神奈川県周産期母子医療センターとして鶴見区に位置し、産科病棟は病床数 35 床で分娩室 2 床、陣痛室 4 床、院内助産室 1 床になります。NICU・GCU も併設しており、年間約 1,000 件の分娩を扱っています。帝王切開率は 28.5%で NICU 併設かつハイリスク出産を扱っている病院としては低い数字であると言えます。産科小児科と連携を取り、母児の安全を最優先にしながらも経膈分娩の多い病院かと思われます。助産師は 38 名で、うちアドバンス助産師は 17 名在籍しています。

院内助産システム

ローリスクで正常な妊娠経過をたどっている方を対象に、妊娠中期から出産、産後まで助産師が中心となり継続的に支援しています。安全な妊娠・分娩・産褥経過を送るために、必要時には医師と協働して関わっていきます。妊婦健診では産む力を引き出し、自分らしい出産をするために、1 人 1 人の状態に合わせた保健指導を行っています。また分娩時にはアットホームな部屋で、ご家族と一緒に過ごすことが出来ます。分娩台はなく、希望の場所にて（ベッド、ソファー、床など）フリースタイル出産を行っています。また次も院内助産でお産がしたいとリピーターの方も多く、助産師としてやりがいと誇りを持って働いています。



院内助産でも産した
方々と助産師の集い



母子訪問

当院では産後のフォローとして、電話訪問や助産師外来で母乳・育児相談を行っていました。産後をよりサポートしていくために、産後ケア事業拡大の必要性を考慮し、2022 年より家庭訪問を開始しました。家での様子が伺え、産後早期で通院が大変な方からは不安が解消され、自信をもって育児を行えるようになったという意見がみられています。

和痛分娩

和痛分娩を希望される患者様が多くそのニーズに答える必要性が高まってきました。また高血圧や精神疾患を合併し陣痛の大きなストレスで経膈分娩が困難な患者様も多数おり、そのような方々の分娩を可能にするため、2022 年 10 月より和痛分娩を開始しました。現在月に 6 件程度の実施ですが順次拡大していく予定です。

リプロダクション・メンタルヘルス外来

近年不妊治療を受ける夫婦は顕著に増加しており、多くの女性がリプロダクション外来を受診しています。それと同時に思うような治療結果が出ず焦りを抱いたり、仕事の両立に悩みを抱える女性も多くなってきています。当院では不妊治療を行う方に不妊症認定看護師より、メンタルサポートを行い、妊娠を目指す女性のサポートも行っています。



ペアレンティングサポートシステム

核家族化や女性の晩婚化でサポートの薄い女性が増加し、経済的な困窮者、望まない妊娠や若年妊娠も減る傾向にはありません。さらには精神疾患を抱えた妊婦も大変増加しており、精神科病棟を併設している当院では、近医からの紹介も多く、精神的なサポートを必要とする女性がとても多いです。そのため周産期に特化したペアレンティングサポートチームを院内で組織し、心理士・MSW・薬剤師・小児科など、多職種と連携を図り支援する体制が整っています。助産師の資格を持つ心理士も在籍しており、地域と連携を取りながら、個別的なケアの難しいメンタルヘルスについても、日々悩みながらも母児の安全を守るために協働しています。



地方独立行政法人神奈川県立病院機構

神奈川県立こども医療センター

横浜市内南区六ツ川 2-138-4



当院は、神奈川県周産期救急システムの基幹病院・総合周産期母子医療センターとしてMFICU6床・母性病棟24床、LDR（LaborDeliveryRecovery）2部屋、分娩室2部屋、産科専用手術室、蘇生室を有し、胎児疾患、胎児発育遅延や多胎、切迫早産、母体合併症、胎盤位置異常などのハイリスク妊娠を対象としています。2023年度の分娩件数は498件（帝王切開209件）うち死産36件・早期新生児死亡16件と周産期喪失を経験する女性や家族を支援する機会が多くあります。胎児に何らかの異常が認められた方（年間400件以上）が外来紹介受診されています。外来または入院による精査を行い、精査後に多職種カンファレンスを行い、分娩方針および出生後の治療について話し合います。カンファレンスには、産婦人科、内科、新生児科、胎児の疾患に合わせた各科の医師、保健師・メディカルソーシャルワーカー・臨床心理士、母性病棟・NICU・産科外来スタッフが参加します。カンファレンス後、本人とパートナーへ病状説明を行います（産婦人科医師、新生児科医および該当診療科医師、産科外来スタッフまたは母性病棟スタッフ、保健師またはメディカルソーシャルワーカー同席）。病状説明後や外来受診中の保健指導時に、予期せぬ子どもの疾患や早産の可能性に対する戸惑いや不安、怒りなどさまざまな感情や思いを表出できるよう関わり、本人・家族の語りを共有します。また、生まれてくる子どもへの思いや過ごし方について確認した内容をカルテ記載し、多職種で共有します（可能であればパースプランを記載していただきます）。妊娠中に、胎児ナース（NICUのプライマリナース）の顔合わせやNICU見学を希望に合わせて行います。18トリソミーについて説明されたご家族に、18トリソミーをもった子どものご家族が作成されたアルバムの紹介を行い希望に沿って閲覧していただけます。

出生時のケア

分娩方法が帝王切開術で、集中治療を選択せず看取りを念頭にしたケアを行う場合には手術が終わるまでの間、蘇生室で父親が子どもを抱っこして過ごしていただくこともあります。子宮内胎児死亡時の経膈分娩では、子どもとの面会のタイミングについて相談しながら行います。子宮内胎児死亡であっても娩出直後の子どもは温かく、両親が肌のぬくもりを感じられる大切な時間になります。無頭蓋症や腹壁破裂などの外表奇形や浸軟が強い場合でも、なるべく子どもがかわいく見えるよう配慮します。

●母児同室

亡くなられた後も沐浴や搾乳をすることができます



●祈りの部屋



●屋上庭園散歩

家族写真を撮影したり、家族の時間を過ごします。天気の良い日には、ランドマークや横浜ベイブリッジ、富士山を見ることが出来ます



●思い出を残す

臍帯、手・足型、髪の毛や爪、身に付けていたもの（肌着やオムツ、臍帯クリップなど）家族やスタッフが作った折り紙や手紙を、コットに飾る（色画用紙、マジック、色鉛筆、折り紙、折り紙の本、マスキングテープなど準備あり）



●天使のブティック・ちょうちとおはな

周産期喪失を経験したご家族が設立した天使のブティックの肌着（小さく生まれたお子さまに合わせた肌着と共布で作られたチャーム）ちょうちとおはなのゆりかご（小さく生まれたお子さまを抱っこしやすくするコットとチャーム）



●こころとからだの道しるべ

※お子さまを迎えるために
※産後まもないころ（からだのこと・きもちのこと）
※退院してしばらくしてから（日常生活に戻ること・悲しみへの対処・パートナーとの関わり・きょうだい・おじいちゃんおばあちゃん・親戚や周りの人・お子さまを亡くされた経験を持つ方と話すこと）



出生後のケア

子どもの状況によりNICUまたは母性病棟で母とともに過ごします。（母性病棟で過ごす間は、NICUスタッフが母性病棟に訪室しケアします）同胞面会は、事前に感染症チェック（罹患または予防接種済）と当日の体調を新生児科医師が確認します。看取りになるときも、ご家族の希望に合わせ母性病棟またはNICUファミリールームで過ごします。

看取り後のケア

看取り後は、母と同室または祈りの部屋（霊安室）でお預かりします（一旦、祈りの部屋で預かった後も希望時に、母の病室または祈りの部屋での面会が可能）。本人とパートナーへ諸手続きについて説明します。退院時には、母の部屋または祈りの部屋で着替えなどお手伝いをさせていただきます。産婦人科医師、新生児科医師、母性病棟スタッフ、NICUスタッフと共に子どもを抱っこさせていただいたり、子どもと家族の頑張りや労いながらお見送りをします。

●ぼくのたからもの

きょうだい児へ赤ちゃんの喪失を伝える絵本



●わたぼうしの会

当院の周産期で喪失体験されたご家族に、案内状を郵送。特に参加確認はせず、当日受付（年に3回開催・院外施設2回、院内1回※院内のみ子どもの参加が可能）。保健師またはソーシャルワーカー、遺伝カウンセラー、母性病棟スタッフ、NICUスタッフ、喪失体験当事者（ピアサポート）が参加。スタッフがファシリテーターを行い、家族の語りを共有します。わたぼうしの会開催後に、家族の語った内容が病棟スタッフへフィードバックされます。家族の語りを共有することで、提供したグリーフケアの振り返りや、今後のグリーフケアについて考える機会となります。

●慰霊式

当院で亡くなられた患者様のご家族へお知らせをしています。慰霊式後に、ご家族の語りのお話をしています。

退院後

1か月健診時に、産科医師の診察、助産師の身体面・精神面の回復状況について確認しながら、本人・家族の語りを共有します。

予期せぬ胎児疾患や早産のため、周産期喪失を経験するご家族がそれぞれの形で子どもを受け入れながら、限られた時間の中で大切な家族の時間を過ごしていただけるよう支援させていただいています。喪失後も家族の一員として語られる子どもたちの姿に、家族のレジリエンスを感じます

医療法人産育会堀病院

横浜市瀬谷区二ツ橋町 292

当院は 1959 年 3 月に設立した産科
婦人科小児科の病院です。

病床数は 60 床です。産育会という名
は出産だけで終わるのではなく地域で
生まれた子ども達を地域で見守り育む
ことで地域の皆様が安心して暮らせるサ
ポートを大切にしています。また時代
の変化に対応し、妊娠出産育児の切れ
目のない支援と女性の一生サポートを
目指し、小児期・思春期・産後期・更年期・
老年期を丸ごと支援します。



堀病院の外来

- 思春期から成熟期の妊娠・更年期・老年期まで様々なライフステージに寄り添います。
- 月経異常や避妊相談・ブライダルチェック・子宮がん検診・更年期症状への支援・骨量検診・骨粗しょう症と多岐にわたる支援をし、出生前診断、妊婦検診時のエンジェルメモリー 4D スクリーニングを導入し助産師による保健指導できめ細やかな支援。
- 分娩では新しい家族を迎える場所、人生で大切な瞬間を安心して出産・育児ができるよう寄り添います。無痛分娩・自然分娩・夫立ち合い分娩とご家族の希望に合わせた出産を選択できます。分娩件数は年々減少しています(図 1 参照)。
- 救急車両にて出産時の送迎を行い、不安の軽減を目指しています。

[図1]
分娩件数の推移

2016年	2306件
2017年	2102件
2018年	1923件
2019年	1808件
2020年	1732件
2021年	1446件
2022年	1179件
2023年	1083件

小児科外来

- 新生児から中学生までの外来診療を行い健康な生活が過ごせるよう支援しています。
- 2021 年 7 月よりエビデンスのあるスキンケアを分娩翌日から開始し、自宅でも継続できる支援を行うことで、1 か月健診では赤ちゃんの肌がぴかぴかするつです。



様々な取り組み

- 各種教室として妊娠中のファミリークラス・母乳相談・乳房マッサージ 2 週間健診・1 か月健診・マタニティヨガ・ひよこクラス【生後 2 ~ 6 か月】うさぎクラス【生後 7 ~ 12 か月】心のクラス臨床心理士によるカウンセリングを実施し、安心な子育てと仲間づくりを大切にかかわっております。
- 2023 年より女性セミナー(更年期セミナー)を実施し、ホルモン変化に伴う症状や骨盤底筋の低下による症状への支援を実践しています。
- 切れ目のない支援の一環として産後ケアを 2022 年 4 月より開始いたしました。デイケア・ショートステイで出産後の育児不安と母親の心や身体の回復過程を助産師、看護師保育士がお母様の健康を支援しています。エステサロンでは出産後に無料で 1 回体験(入院中)できます。そのほかの美容エステや EMS【骨盤底筋強化・脂肪低下】脱毛・よもぎ蒸し・各マッサージで癒しと美への支援を行っています。



*** 2023・2024年度 *** 助産師職能委員会 活動及び研修会 報告

2023年	7月28日(金)	職能委員会・職能集会 講演会「神奈川県内における地域包括ケア病棟の現状及びプレコンセプションケアについて考える」 ◆ 医療法人産育会堀病院 看護部長 布施 明美、主任看護師 岩田 真由美
	8月25日(金)	職能委員会
	9月15日(金)	職能委員会
2023年	10月19日(木)	職能委員会 研修会「授乳支援」 ◆ みやした助産院 宮下 美代子
	11月17日(金)	職能委員会 研修会「緊急時の対応」 ◆ 医療法人産育会 堀病院 理事長 金井 雄二 研修会「妊娠と糖尿病」 ◆ 神奈川県立こども医療センター 内科医師 萩原 聡子
	12月15日(金)	職能委員会
2024年	1月26日(金)	職能委員会 4 職能合同研修会「メンタルヘルスと自殺問題」 ◆ 札幌医科大学 医学部主任教授 河西 千秋
	2月21日(水)	職能委員会
	4月26日(金)	職能委員会
	5月24日(金)	職能委員会
	6月14日(金)	職能委員会
	7月19日(金)	職能委員会
	8月23日(金)	職能委員会
	9月9日(月)	職能委員会・職能集会 研修会「周産期メンタルヘルス」 ◆ 済生会横浜市東部病院 公認心理師・臨床心理士・助産師 相川 祐里
	10月11日(金)	職能委員会 研修会「プレコンセプションケア1・2」 ◆ 上智大学 教授 島田 真理恵
	11月29日(金)	職能委員会 研修会「CTG判読と母体感染のリスクと対応」 ◆ 神奈川県立こども医療センター 副院長・産婦人科部長 石川 浩史
2025年	12月17日(火)	職能委員会 研修会「プレコンセプションケア3・4」 ◆ 上智大学 教授 島田 真理恵
	1月17日(金)	職能委員会
	2月21日(金)	職能委員会 研修会「プレコンセプションケア5・6」 ◆ 上智大学 教授 島田 真理恵
	3月14日(金)	職能委員会

Voice1

～地域包括ケアについて考える～プレコンセプションケアに参加して

大井町役場 助産師 ◆ 簗島 美和



プレコンセプションケアについて、私は幼少期からの「自分を大切に守る」という意識を持つ事が大事であると感じています。研修のグループワークで話し、皆さんも同じことを考え何かしたいという熱い思いがあることがわかりました。神奈川の助産師間のネットワークを強固にし、病院だけでなく学校や企業等、

社会に出向いての活動が必要だと思いました。産後ケアは、需要はあるものの病院での実施は難しい現状があります。堀病院の立ち上げと、6症例を聞き、一人一人のニーズや満足度はそれぞれに違い、寄り添い、細やかなケアが必要だと思いました。より具体的な内容で、参考になりました。ありがとうございました。

Voice2

授乳支援に参加して

済生会横浜市東部病院院 ◆ 岩田 光代

授乳支援に関しては乳頭の形や分泌状況、児の体格や吸い方、母の思いなどそれぞれの母児の個性に合わせた支援が必要であり、助産師それぞれに考え方が存在し、支援が難しいと感じていた。母自身も母乳がうまくいかないケースでは精神面にも影響を与え、思い描いた育児とのギャップに苦しむ姿を前にすると、助産師としても胸が痛くなることが多い。ローリスクの多い助産院でも対応困難なケースが多いと講義で聞き、この様に感じているのは私だけではないのだと思うことができた。

また助産院のケアはとてきめ細やかで、退院後も途切れなく支援を行っている事を知った。吸着困難ケースでは3日に1回の支援を行っていたり、産後ケアでじっくりと関わっているお話は、とてもうらやましく病院でも取り入れていきたいと強く思った。



時代の変化と共に家族の在り方や女性のライフスタイルも変化してゆき、助産師も日々目の前の母児と家族と共に悩み考えながら、新しい知見や学びを活かして宮下先生のように寄り添っていきたいと思う講義であった。

Voice3

緊急時の対応・妊娠と糖尿病に参加して

横須賀共済病院 ◆ 尾無 未侑



妊娠・出産は病気ではありませんが、時に正常を逸脱し、母体、胎児が危険にさらされてしまうこともあります。多量出血やショックは、望ましいことではありませんが、頻繁に立ち会う事例であると思います。つまり、迅速で適切な対応を行うことが重要であり、誰もがその技術と知識を身につける必要があるということです。今日までの産科医療の実際と、



急変時の対応を改めて学び、いち助産師として正しい知識と技術で妊産婦、褥婦に関わりたいと思いました。

また近年、妊娠糖尿病の方も多く見受けられます。妊娠糖尿病の病態やリスクだけでなく、臨床ですぐに実用できる妊婦への指導方法や心理支援などもご教授くださり、非常に多くのことを学ばせて頂きました。

Voice4

メンタルヘルスと自殺問題に参加して

済生会横浜市東部病院 ◆ 菅原 真澄



3 職能合同での講義は助産の分野だけでなく、幅広い対象に深くかかわる自殺という大きな問題をテーマにした講義を受けることができ、大変興味深かった。

助産に関することとしては、近年女性の自殺が増えていることを知った。日々業務を行う中で、精神疾患を抱えた女性が大変増えていることを感じていたので、この自殺の増加は悲しいが納得せざるを得なかった。妊娠中や育児に向き合う女性の中には自分を傷つ

けてしまいたくなる方もおり、そのような方どのように向き合えばいいのか、自分の関わり一つでさらに傷つくことにならないか、医療者として悩みながら仕事をしていたので、少しでも自殺に関わる知識の増加は、自分の糧になったと思われた。

このような内容の講義を聞く機会はあまりなく、大変貴重な講義であったと思う。



私が勤務している施設でも、精神疾患を合併していたり、妊娠・出産に対して多くの不安や背景に様々な問題を抱えている妊産褥婦と関わる機会が多くあり、ケアに困難さを感じることがあります。今回、妊産褥婦への心のケアについて学びを深めたいと思い研修に参加しました。

研修では、“なぜ、周産期のこころのケアが大切?”について近年の子どもへの虐待や妊産褥死亡に関する社会の動向について講義を受け、妊娠期から母、子、家族全体を把握し、問題が起こる前から関わり、お母さんになる過程を支えていくことの大切さを改めて実感しました。また、育児支援チェックリスト、EPDS 質問票、赤ちゃんへの気持ち質問票の活用や聴き方について学び、問題にばかり目を向けるのではなく、母と家族が持つ強みを知り支援に繋げること、その支援を相手が主体的に選択できるよう介入することが重要であることを学びました。“聴く”ことについて



講義を受け、実際にグループワークを通して相手に寄り添い、関心を持ち受け止めることの大切さを改めて実感しました。

私自身、助産師として問題を抱えている妊産褥婦に何か介入しなければと考えがちですが、今回の研修を通して、まずは目の前のお母さんに寄り添い、お母さんになる過程を支える伴走者でありたいと感じました。



*** 2025 年度 *** 助産師職能研修予定



CLoCMiP 必須研修

プレコンセプション活動報告会

新生児の頭蓋骨形成の治療について

シンポジウム

メンタルヘルスケア

産科管理者

※開催日等の詳細は後日ご案内する研修募集案内をご覧ください。

2023 年度及び 2024 年度 助産師職能委員紹介

助産師職能委員長	布施 明美	会 計	土井 秀子	広 報	菅原 真澄
副委員長	小保方 加奈子		三浦 菜見子		吉田 淳
書 記	千葉 菜緒		諏訪 和美		和田 紗耶加
	関口 美鈴				

